

# 資本論を読む会

Working Men of All Countries, Unite!

July

入会金・会費無料

労働日とは何か? どの程度までその拡張が許されるのか?

**(第13回) 2016年7月10日(日) 午後6時半～9時まで**

第10章 労働日 第六節 標準労働日のための闘争 英国工場法 (前半)

**(第14回) 2016年7月24日(日) 午後6時半～9時まで**

第10章 労働日 第六節 標準労働日のための闘争 英国工場法 (後半)

**三軒茶屋 太子堂区民センター 第2会議室 にて**

世田谷区太子堂 1-14-20 ☎03-3422-1101 東急田園都市線 三軒茶屋駅から徒歩5分 裏面地図参照

今輪読している第10章の表題は、「労働日」です。すでに読んで来たように、労働日とは何か? という問いは、繰り返し登場します。資本家側から見れば、賃金と引き換えに労働者を自由に使用する権利を得たのであり、それは日24時間を意味しています。そしてその使用の自由をどこまでも吸血鬼のように求めるのである。そして安息日を厳粛に守るキリスト教徒の国なのに! 日曜日の安息は、月明かりのごとき代物、どうでもいいことにするのである。彼ら資本家ら、神

**現在の我々の労働日は、週40時間を超えず、日8時間を超えないことと労働基準法に規定されている。**

法第32条に、使用者は、労働者に、休息時間を除き一週間について40時間を超えて、労働させてはならない。(2)使用者は、一週間の各日については、労働者に、休憩時間を除き一日について8時間を超えて労働させてはならない。と書かれている。なぜ、かつては日24時間を意味する労働日がこのような規定で縛られることになったのかを、資本論は書いている。

聖なる者らは、他人の過重労働、窮乏、飢餓には耐えうるという謙虚さをもって、彼等の信仰を表す術を修得しており、グルメに狂いながら、労働者に対しては、「大食は胃をひどく痛める」と古代ローマの詩人ホラチウスの言葉を弄ぶのである。労働者たちのわずかな休息や食事時間は、機械にグリスを塗ったり、ボイラーに石炭を放り込むのと同じようなものにしてしまうのである。

他でもなく、労働者たちの資本家達に対する様々な闘いを経て、標準労働日の合意が法的に形成されて行ったからである。だが、法があっても、資本家がこれらの規定を守ると言うものではないことは、我々多くの労働者は知っている。労働者の闘いの継続が薄くなれば、直ぐにでもブラック化するのは身をもって経験済みである。労働日の歴史をさらに見て行こう。



### 世田谷区立 太子堂区民センター 位置図

南口 A を出て、銀座アスターのロゴの手前を右に入る

園田耳鼻科

水道局

Foodium ストア(スーパー)

### 英国労働法制の確立経過を見よと。

14 世紀から 18 世紀の間の英国労働法令と 19 世紀に入ってからのそれを比較して見よ。と資本論は述べる。近代工場法は強制的に労働日を短縮するのに対して、初期の法令はそれを無理やりに延長しようとしたものである。成長を始めた頃、資本が剰余労働を吸収する権利を確実にしようとしたもので、国家の力を借

### 闘争、工場法、標準労働日の制定、そして労働者の団結権の確保

我々の読書会では、会の各メンバーが、いろいろな年表を作成して提供している。梅原さんは、この時期の世界各国の状況を世界年表の形でまとめた。小島さんは、資本論の記述の中からまとめた、英国工場立法年表を提供した。また、寺島さんは、自らの戦後日本史の勉強のために、ソ連・中国を研究した時に作成

### 資本側の工場立法に反対する様々な態度についても確認して行こう。

資本家らの目には、溢れるばかりの、不断の過剰人口が見えている。労働者は劣悪なる環境・条件で健康を犠牲にして働かざるをえない。短命である。しかし亡くなった者の場所は、瞬時に満たされる。人々の、そのような頻繁なる入れ換えがあってもその情景にはなんの変更も生じない。資本家らは、労働力そのものの早期の消耗と死をも生産したのである。製陶工場働く者たちの不足があるのか？今まで 2 万人の街が、1861 年には 10 万人の街になった。労働市場が枯渇を示したことは疑いもない。その時、製造業者達は、救

りてでもそれを果たそうとしたものである。これが一転して、標準労働日の法制へと発展したのは、数世紀に渡る継続的な資本家と労働者の闘争の結果であり、またそれを利用して大企業が中小企業の犠牲の上に大きな利益をむさぼることができた経過を含んでいる。資本家らは労働者の健康や生活を気にもしない。

した独自の寺島版年表を会のために開示してくれた。これらを見れば、闘争の歴史、労働法制の歴史、労働者の団結権・団体交渉権・スト権の成立の経過を鮮明に理解することができる。ありがとうございました。まさにこれらの年表は資本論を読む会の宝物です。会に参加したくなっただけでしょう。どうぞおいでください。

貧法委員会に、農業地域の「余剰人口」(当然ながら農村から追い出すべき人口のことである。)を、マンチェスターに送り出すべきであると迫った。英国救貧院施設から子供たちが送り出された。子供たちには食事・衣服・宿舍の他少額とはいえ給与を出すとの契約内容が委員会と交わされた。工場査察官のレッドグレーブ氏が報告している。1850 年の工場法のもとに置かれた英国製造業者達がいかに子供たちを取り扱ったかは、報告書をまともに読んでも分からない。資本家らは、子供たちに仕事を教え、豊かにしたと。

8 月のスケジュールは、夏休み期間とし、8 月 21 日(日)のみです。午後 6 時半～9 時 太子堂区民センター  
 連絡先： 資本論を読む会 (代表 宮崎恭一) kyo-miya@k08.itscom.net 03-3720-1621 世田谷区奥沢 1-36-14  
 テキストは、英語版資本論の和訳(宮崎)と、英文を、会で用意しますが、向坂訳(他でも可)も使用します。  
 また、直接、会に参加できない方のために、メーリングリスト会員も募集しています。